

令和7年度 自己評価書

令和8年1月7日(水)
学校法人アソカ学園朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもが本来持っている「感じる力・考える力・表現する力」を大切に、日々の生活やあそびの中で、その力が自然に育まれていくことを教育の根幹とする。また、人や物、自然との関わりを通して、自分の気持ちを知り、相手の思いに気づきながら、心と身体のバランスの取れた成長を目指す。そして一人ひとりの個性を尊重し、安心して自分らしさを発揮できる環境の中で、【自分で考える力・人とつながる力・チャレンジしようとする心】を育てていく。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

子どもたちが日常の中で「気づく・試す・工夫する」経験を重ねられるよう、保育者は先回りをせず、子どもの姿に寄り添った関わりを意識することを重点課題とした。また、安心できる人間関係を基盤に、子ども自身が思いを伝え、行動に移していく過程を大切にしながら、主体的な育ちを支える保育を目標としてきた。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	
① 保育の計画性	アソカ学園の教育方針及び理念、教育課程を通して、子どもの実態を踏まえた柔軟な計画立案を心掛けた。計画通りに進めることを目的とするのではなく、子どもの興味やつぶやきを起点に内容を見直ししながら、日々の保育が積み重なっていくよう意識して取り組んだ。	B
② 保育のあり方 幼児への対応	子ども一人ひとりの感じ方や表現の違いを受け止め、否定せずに認める関わりを大切にしてきた。また、子ども同士の関係が深まる中で起こる葛藤や衝突についても、気持ちを言葉にする経験として捉え、安心して思いを出せる環境づくりに努めた。	B
③ 教師として資質 能力、適正等	保育者自身が学び続ける姿勢を持ち、日々の保育を振り返ることを大切にしてきた。一方で、経験や価値観の違いから関わり方に差が出る場面もあり、今後は園としての共通認識をより明確にし、保育の質の安定を図る必要があると感じている。	B
④ 保護者への対応	行事や日常のやり取りを通して、保護者との信頼関係の構築に努めてきた。しかし、家庭と園での子どもの姿に保護者から見えにくい部分などによるズレが生じることもあり、保育の意図や子どもの成長過程について、より丁寧に伝えていく必要性を感じている。	B
⑤ 地域の自然や社会 との関わり	園外に出て自然や地域の人と関わる経験を通し、子どもたちは多様な価値観や役割に触れることができた。身近な地域とのつながりを大切にしながら、園内だけでは得られない学びや刺激を今後も積極的に取り入れていきたい。	A
⑥ 研修と研究	毎年、県や市、幼稚園協会内の研修に積極的に参加している。ただし、深い学びへと繋げていくためには引き続き、継続的かつ、自ら学ぶ姿勢が大切に、精進していくことが求められる。	B
⑦ 外部アンケート	回答率は79.2% 回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。以前より継続して「保護者向けアンケート」を定期的に行っており、質の向上、改善に努めてきた。結果として良い変化が見られる。引き続き子どもたちが安心して、保護者に信頼される園を意識して精進していく。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

様々な体験・経験から子どもたち一人ひとりの個性を大切に、学びや育ちに繋げていく保育を意識することで、日常の「楽しい！」を探求し、「またやりたい」「もっとやりたい」という純粋な意欲をあそびを通して育み、個性を大切に、アソカ学園の掲げる「あそびから創造へ」を体現してきた。また、子どもたちは日々の生活やあそびの中で、自分なりに考え、試し、友だちと関わりながら成長する姿を見せてくれた。そして、保育者が見守る姿勢を大切にすることで、子ども自身が行動を選択する場面も増え、主体的な姿が随所に見られるようになった。一方で、保育の意図や子どもの育ちを十分に伝えきれていない場面もあり、家庭との共有の在り方については今後の課題として残った。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子どもの姿をもとにした保育の振り返りと、職員間での対話の充実	園児の情報や園生活の中で起こった出来事に関して、職員同士の共有を今年度は特に意識して取り組んできた。こちらは継続的に進んでいくが、保護者への連絡や内容の共有をする際に難しさを感じることも多々あった。働き方の改善が行われている中で、時間の使い方や仕事の内容の見直しをしたうえで抜本的にとらえ改善する必要がある。
日常の保育や育ちを分かりやすく伝えるための情報発信の工夫	行事や特別な活動だけでなく、日常の何気ないあそびや関わりの中にこそ、子どもたちの育ちが多く見られる。写真や文章、ICT ツールを活用しながら、保育の意図や子どもの成長過程を分かりやすく伝えることで、家庭と園との理解や信頼関係のさらなる深化を図っていく。
地域や家庭と連携し、子育てを支える園としての役割の明確化	子どもを取り巻く環境が多様化する中で、園は子どもだけでなく家庭や地域とつながりながら、子育てを支える役割が求められている。今後は、未就園児や子育て家庭への支援を含め、地域に開かれた園としての在り方を見直し、安心して頼れる場となるよう取組を進めていきたい。

令和7年度 学校関係者評価書

令和8年2月24日(火)
学校法人アソカ学園 朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもが本来持っている「感じる力・考える力・表現する力」を大切に、日々の生活やあそびの中で、その力が自然に育まれていくことを教育の根幹とする。また、人や物、自然との関わりを通して、自分の気持ちを知り、相手の思いに気づきながら、心と身体のバランスの取れた成長を目指す。そして一人ひとりの個性を尊重し、安心して自分らしさを発揮できる環境の中で、【自分で考える力・人とつながる力・チャレンジしようとする心】を育てていく。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

子どもたちが日常の中で「気づく・試す・工夫する」経験を重ねられるよう、保育者は先回りをせず、子どもの姿に寄り添った関わりを意識することを重点課題とした。また、安心できる人間関係を基盤に、子ども自身が思いを伝え、行動に移していく過程を大切にしながら、主体的な育ちを支える保育を目標としてきた。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会		
① 保育の計画性	アソカ学園の教育方針及び理念、教育課程を通して、子どもの実態を踏まえた柔軟な計画立案を心掛けた。計画通りに進めることを目的とするのではなく、子どもの興味やつづきを起点に内容を見直ししながら、日々の保育が積み重なっていくよう意識して取り組んだ。	B	園生活の中で先生やお友達と過ごしていくうちに、日々できることが増えていっていると感じることが多い。自分でやりたい・やれるという気持ちを育ててくれ、大切にしてくれていると思った。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	子どもたちの様子や状況を職員間で共有し、一人ひとりがのびのびと、安心して生活できる環境を意識してきた。また、個性的な子どもたち、様々な家庭がある中、多様性を重視し、子どもたちの意思を尊重した保育を進めてきた。	B	アシスタントの先生がいろんなクラスも見てくれたことで、どの先生も一人一人のことを知っていたように見えて安心した。子供達の良いところを褒めてくれるので子供達の自信に繋がった。今年の星組のお遊戯会の器楽演奏は男女関係なく、自分で選択させてもらえて子供のやる気と自信に繋がっていい経験になった。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	保育者自身が学び続ける姿勢を持ち、日々の保育を振り返ることを大切にしてきた。一方で、経験や価値観の違いから関わり方に差が出る場面もあり、今後は園としての共通認識をより明確にし、保育の質の安定を図る必要があると感じている。	B	子供達の楽しいをこれからも増やして成長に繋げてほしい。担任の先生だけでなく、困ったことがあったときにだれにでも相談できる環境を引き続き作ってほしい。	A
④ 保護者への対応	行事や日常のやり取りを通して、保護者との信頼関係の構築に努めてきた。しかし、家庭と園での子どもの姿に保護者から見えにくい部分などによるズレが生じることもあり、保育の意図や子どもの成長過程について、より丁寧に伝えていく必要性を感じている。	B	保護者への意見・要望を前向きに受け入れてくれている。相談事も保護者に寄り添って解決しようとしてくれている。アンケートを配信してもらえることで保護者からの信用に繋がった。園長の定期的なアプリ配信も考えが安心、信用に繋がった。	B
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	園外に出て自然や地域の人と関わる経験を通し、子どもたちは多様な価値観や役割に触れることができた。身近な地域とのつながりを大切にしながら、園内だけでは得られない学びや刺激を今後も積極的に取り入れていきたい。	A	他園との繋がりを大事にしていたと思う。近隣の学生や老人ホームの方に触れ合うことで、子供達も普段と違う経験を得られた。地域の方々との触れ合いも今後増えたら地域にも優しく成長できると思う。子供達の近い未来に必要な防災についての学びはもちろん、交通安全教室も必要があると思う。	A
⑥ 研修と研究	毎年、県や市、幼稚園協会内の研修に積極的に参加している。ただし、深い学びへと繋げていくためには引き続き、継続的かつ、自ら学ぶ姿勢が大切に、精進していくことが求められる。	B	療育カウンセラーの職員の方が、保護者への安心に繋がった。より多くの保護者が積極的に利用できるように広く周知・アピールも良いのかと思う。	B
⑦ 外部アンケート	回答率は79.2% 回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。以前より継続して「保護者向けアンケート」を定期的に行っており、質の向上、改善に努めてきた。結果として良い変化が見られる。引き続き子どもたちが安心し、保護者に信頼される園を意識して精進していく。	A	アンケートを実施する等、他者からの積極的な意見共有に取り組んでいる。意見共有後の意見開示や意見反映における改善案等の見解も開示していただけると、より促進できるのではないと思う。学期に一度あるとは更に保護者が安心できると思う。アプリでの写真配信はバス登園家庭・共働き家庭・平日に寝顔しかみることのできない父親に幸せをもらった。	A

* 結果の表示方法

A 十分達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

B 達成されている

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

様々な体験・経験から子どもたち一人ひとりの個性を大切に、学びや育ちに繋げていく保育を意識することで、日常の「楽しい！」を探求し、「またやりたい」「もっとやりたい」という純粋な意欲をあそびを通して育み、個性を大切に、アソカ学園の掲げる「あそびから創造へ」を体現してきた。また、子どもたちは日々の生活やあそびの中で、自分なりに考え、試し、友だちと関わりながら成長する姿を見せてくれた。そして、保育者が見守る姿勢を大切にすることで、子ども自身が行動を選択する場面も増え、主体的な姿が随所に見られるようになった。一方で、保育の意図や子どもの育ちを十分に伝えきれていない場面もあり、家庭との共有の在り方については今後の課題として残った。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子どもの姿をもとにした保育の振り返りと、職員間での対話の充実	園児の情報や園生活の中で起こった出来事に関して、職員同士の共有を今年度は特に意識して取り組んできた。こちらは継続的に行っていくが、保護者への連絡や内容の共有をする際に難しさを感じることも多々あった。働き方の改善が行われている中で、時間の使い方や仕事の内容の見直しをしたうえで抜本的にとらえ改善する必要がある。
日常の保育や育ちを分かりやすく伝えるための情報発信の工夫	行事や特別な活動だけでなく、日常の何気ないあそびや関わりの中こそ、子どもたちの育ちが多く見られる。写真や文章、ICTツールを活用しながら、保育の意図や子どもの成長過程を分かりやすく伝えることで、家庭と園との理解や信頼関係のさらなる深化を図っていく。
地域や家庭と連携し、子育てを支える園としての役割の明確化	子どもを取り巻く環境が多様化する中で、園は子どもだけでなく家庭や地域とつながりながら、子育てを支える役割が求められている。今後は、未就園児や子育て家庭への支援を含め、地域に開かれた園としての在り方を見直し、安心して頼れる場となるよう取組を進めていきたい。

6 学校関係からのコメント

保護者からの園の評価が良く、園の考えが伝わっていて雰囲気の良いことが伝わる。地域の大人との触れ合いや就学する前に教育したい交通ルールも今後の課題と感じる。就学する前に教育したい交通ルールも今後の課題。他園以外への遠足もあるといい。アプリ配信による、写真、園長定期配信も引き続きあるとうれしい。

令和7年度 自己評価書

令和7年12月23日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。活動を計画する際、今のクラスの子どもの様子と環境に適した保育を考え、学年を問わず先生方と意見交換をしながら進めている。運動会、遊戯会などの行事は、日頃の保育の延長と捉え、1学期より運動遊び、楽器あそび、歌などを沢山経験した中から、子どもたちに合った活動を取り入れている。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	B
②保育のあり方 幼児への対応	今年度は、子どもたちが興味を持ち取り組んでいることをきっかけに、活動を考え、一人ひとりの援助の仕方、声の掛け方等職員で日々検討している。活動が終わった際には、「育てたい10の力」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーキットあそびなど園内のおちこちに自由に活動できるコーナーを用意し、運動、創作、表現あそびなど、様々な活動を自分たちで発展していけるよう環境づくりを行っている。	A
③教師としての資質 能力、適性等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、今後の社会に向けて、よりよい保育を考え、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を進め、保育に取り入れれたり、他の先生に提案をしたりして特技を活かし、保育の質を高め合っていきたい。	A
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるといふところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家での様子を聞いて、日々の取組みを考えていくようにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ学園で話し合い、模索しながら行っている。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。 また月ごとに保育の写真を園内に掲示し、クラス、学年、園での活動の様子を伝えている。今後はバスキャッチを使って写真を掲載しながら園での様子や取組みを伝えていきたい。	B
⑤地域の自然や地域 との関わり	毎月幼稚園バスに乗って、アソカ学園の他幼稚園児との交流や、農園での野菜の収穫、市運営の施設（科学館、消防見学など）に出かけている。また、カレーパーティーの際、インド国籍の保護者にインドカレーを作ってもらい、みんなでインドカレーの味見をしたり、匂いを嗅いだりして食の違いを体験した。また竜禰寺小学校や地域の介護センターを訪問したり、南部中学校や湖南高校の生徒が体験学習に来たりして、地域交流を進めることができた。今後も活動内容を検討し、体験活動を増やしていきたい。	A
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。日々の活動の指導案作成にあたり、「幼児期に育てたい10の力」について、先生一人一人が考え重点目標を決め、取り組んでいる。また、年一回の学年会や、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図っている。	A
⑦外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認することで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えていきたい。	B

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりのワクワク感や充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より好奇心を引き出す環境を作ることを人的環境、物的環境の両面から考え、試行錯誤しながら進めていった。昼食後、子どもたちが折り紙や制作物、ブロックや粘土などで作った作品を先生やいろいろな学年の子どもたちに披露したり、鍵盤あそびや楽器演奏、ペープサートなど積極的に自分の思いを伝えていた。今後も子どもたちの好奇心を刺激し、自ら取り組んでいく環境を考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行い、部屋の換気や掃除、消毒に取り組んだ。 朝や帰りの自由あそびでは、なわとび、ボールあそび、鬼ごっこなど、身体を楽しく動かすあそびを呼びかけ、子どもたちが自ら運動あそびに取り組めるよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサーキットあそびなども行った。
社会・地域とのかかわり	今年度は、湖南高校生の職場体験や中学生の体験学習、小学校や介護センターへの訪問など、交流を進めることができた。またアソカ農園での野菜収穫や、アソカ学園の他幼稚園を訪問し交流を深めたり、公園や市の施設に出かけたりして、多くの体験をすることができた。 交通教室では、年長の子どもたちが地域を歩く体験も取り入れ、小学校へとつなげている。今後はさらに近隣の小学校、中学校や施設など地域との関わりを深め、みんなで作り子どもたちを育てていく社会を目指していきたい。
安全管理	毎月園舎や遊具の点検を行い、危険がないか点検項目を細かく設けている。今年度は大型遊具の補強を行った。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあった。また、水遊びでは、見守り職員を常に2人配置し、準備から片付けまで安全確認を行った。 園バスにドライブレコーダー、緊急ベルを設置し、乗務員の毎朝の健康観察やバスキャッチを中心とした園児の登降園状況を確認している。 災害に備え、毎月1回以上避難訓練を行っている。地震、火事、川の氾濫など想定を変え取り組み、職員全員で改善方法を考えたり、安全な避難を提案したりして、園全体で取り組んでいる。

令和7年度 学校関係者評価書

令和8年2月2日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいよりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○望ましい生活習慣の身についた子に
○思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○皆と力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。活動を計画する際、前年度の反省をもとに、子どもたちの成長と環境に適した保育を考え、相談しながら進めている。また、各クラス子どもたちの興味があるもの、取り組みたいことを常に捉え、時期や成長に合わせての保育を考え取り組むよう心掛けている。今後さらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	「行事は日頃の活動の延長」というところは、保護者から見ても、子どもの話を聞いても強く感じる。子どもたちの「楽しい!」「もっとやりたい!」という気持ちを尊重していることも印象的である。
② 保育のあり方 幼児への対応	今年度は、子どもたちが興味を持ち取り組んでいることをきっかけに、活動を考え、一人ひとりの援助の仕方、声の掛け方等職員で日々検討している。活動が終わった際には、「育てたい10の力」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーキットあそびなど園内のあちこちに自由に活動できるコーナーを用意し、運動、制作、表現あそびなど、様々な活動を自分たちで発展していけるよう環境づくりを行っている。	いろいろなあそびを用意してくださっているので、子どもたちのびのび遊んでいると思う。子どもたちの自主性も育ち、様々な得意分野をそれぞれが伸ばすことができると感じる。
③ 師として資質、能力、適正等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、今後の社会に向けて、よりよい保育を考え、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を進め、保育に取り入れたり、他の先生に提案をしたりして特技を活かし、保育の質を高めていきたい。	毎年、同じことを繰り返してやっていくのではなく、親の知らない新しいあそびや活動を取り入れている。
④ 保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ学園で話し合い、模索しながら行っている。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。 また月ごとに保育の写真を園内に掲示し、クラス、学年、園での活動の様子を伝えている。ホームページも学期に2回程度更新しているが、今後も内容、時期を検討し充実させていきたい。	お迎えの際、掲示してある写真を見たり、先生方に子どもの様子を聞いたりと、日頃の子どもの様子がよくわかる。 幼稚園から来る「園長先生からのお手紙」では、子どもたちの成長を見守っているという気持ちがひしひしと伝わる。

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

⑤ 地域の自然や地域との関わり	毎月幼稚園バスに乗って、アソカ学園の他幼稚園児との交流や、農園での野菜の収穫、市運営の施設（科学館、子ども館など）に出かけている。また、カレーパーティーの際、父母の会の発案でインド国籍の保護者にインドカレーを作ってもらい、みんなでインドカレーの味見をしたり、匂いを嗅いだりして食の「違い」を体験した。また年長児が竜禅寺小学校や地域の介護センターを訪問したり、南部中学校の生徒が体験学習に来たりして、地域交流を進めることができた。今後も活動内容を検討し、体験活動を増や	B	様々な交流が出来ていると思います。人との接点が少なくなっている今だからこそ大事にしたい所だと思います。	A
⑥ 研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。日々の活動の指導案作成にあたり、「幼児期に育てたい10の力」について、先生一人一人が考え重点目標を決め、取り組んでいる。また、年次園の学年会や、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図っている。	A	アソカ学園は6ヶ園幼稚園があり、研修や話し合いがあることが、子どもの環境作りや保育につながっていると思う。	A
⑦ 外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認することで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えていきたい。次年度は回答率を上げることができるよう、積極的な呼びかけや外国籍の保護者への対応も検討していきたい。	B	今年のアンケートを受けての評議委員会に参加したが、地域の方や小学校の先生と話せる機会があり、いろいろな立場の方の思いや取り組みをすることができて良かった。	A

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりのワクワク感や充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より好奇心を引き出す環境を作ることを人的環境、物的環境の両面から考え、試行錯誤しながら進めていった。今では子どもたちも自分で作った折り紙や制作物などを自ら披露したり、ダンスや体操では、舞台を作っているいろいろな曲を踊ったり、身近な楽器で友だちと合奏を楽しんだりする姿があちこちで見られるようになった。今後も子どもたちの好奇心を刺激し、自ら取り組んでいく環境を考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行い、部屋の換気や掃除、消毒に取り組んだ。 朝や帰りの自由あそびでは、なわとび、ボールあそび、鬼ごっこなど、身体を楽しく動かすあそびを呼びかけ、子どもたちが自ら運動あそびに取り組めるよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日も、楽しく体を動かせるよう、ホールでサーキットあそびなども行った。
社会・地域とのかかわり	今年度は、湖南高校生の職場体験や中学生の体験学習、小学校や介護センターへの訪問など、が交流を進めることができた。またアソカ農園での野菜収穫や、アソカ学園の他幼稚園を訪問し交流を深めたり、公園や市の施設に出かけたりして、各学年毎月遠足に出掛け、多くの体験をすることができた。 交通教室では、年長の子も子どもたちが地域を歩く体験も取り入れ、小学校へとなつづけている。今後はさらに近隣の小学校、中学校や施設など地域との関わりを深め、みんなで作り子どもたちを育てていく社会を目指していきたい。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあっていく。 園バスにドライブレコーダー、緊急ベルを設置し、乗務員の毎朝の健康観察やパスキャッチを中心とした園児の登降園状況を確認している。 災害に備え、毎月1回避難訓練を行っている。地震、火事、川の氾濫など想定を変え取り組み、職員全員で改善方法を考えたり、スムーズな避難を提案したりして、園全体で取り組んでいる。

令和7年度 自己評価書

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
<健康なからだ> <おもいやりの心> <たくましい創造力>

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、週案を立て、保育に取り組んでいる。「幼児期に育てたい10の姿」を意識し、保育内容などに反映するよう、援助の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今年度は、継続性のある保育やあそびの展開が各クラスで繰り広げられ、子どもの成長が顕著に表れて、保育者自身が体感できていた。	A
② 保育のあり方・ 幼児への対応	学年間を中心とした話し合いの中で、内容や流れ、援助の仕方などを共通理解できるようにし、活動後には振り返りをする事で、次の活動につなげている。また特別な支援が必要な園児に対し、キンダーカウンセラーも交え、日々検討している。次年度は、職員全員での話し合いの場を増やしていきたい。ヒヤリハットの検討を通して、ケガ発生に対し、傾向と対策をしっかりと考えていくようにしたい。	B
③ 教師として資質、 能力、適正等	教務専任の先生を交え、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を継続して行っている。今後も、子どもたちに必要な力を育てるための、保育のあり方について、研究していきたい。	A
④ 保護者への対応	保護者への対応は、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に、子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いたりしている。ケガ等があった場合、即、連絡を入れることにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ全園で話し合いながら取り組んでいる。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。	A
⑤ 地域の自然や社会 との関わり	今年度も、アソカ農園での野菜の収穫や、園庭でのあそびの中で、自然に触れる機会が多くあった。また、父母の会企画のもと、園庭ボランティアを募り、子どもたちのあそびの援助を通して、交流を行っている。今後、近隣の施設や公園などの利用も考えたり、小中学校との関わりなど、遠足やあそびに活かしていけないか考えていきたい。	B

⑥ 研修と研究	浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、動画配信ではあるが、個別参加をして自らの視野をひろげようと努めた。昨年度の反省を活かし、終礼の時間を利用して、研修内容の報告会や、他学年の枠を超えての意見交換などを行ってきた。 今年度は、学年会も回数が減ったが、園内研修への参加などがあった。アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。 夏の職員研修では、演劇の実技を通して学ぶべきことが多くあり、職員間の絆を深めることもできた。	B
⑦ 外部アンケート	回答率は60.3%。前年度と比較し、回答率が下がった為、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、回答結果を元に職員全員で考えていきたい。	

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

集団での日々の教育の中において、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの達成感や充実感が持てるような保育やあそびを計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。保護者からの支援・協力により、行事や日々の活動も行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫な身体に	体を動かす活動を中心に、外で元気にあそぶ時間を多く設けるようにする。ボールあそびや、なわとび、リレーごっこ以外にも、様々なルールの鬼ごっこなど、どの学年も、子どもたちが自発的に体を動かして楽しむように引き続き取り組んでいけるようにする。また、転ばないように、ぶつからないようにするには？ということ子どもと一緒に考えていく中で、ケガの減少につなげていきたい。
社会・地域 とのかかわり	今年度も小学校や中学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験は受け入れることができたので、次年度も続けていきたい。アソカ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに様々な人との触れ合いは継続している。
安全管理	幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるようにする。ヒヤリハット報告書を用いて、対策を考えていけるようにする。 園バスのドライブレコーダーや、安全装置も有効に使いながら、職員間での安全認識会議を年度初めに強化していくようにしている。また、毎日、乗務員のアルコールチェックも行っている。 毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防署による園舎点検などを行っていく。

令和7年度 学校関係者評価書

令和8年2月24日
アソカ学園 城北幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、週案を立て、保育に取り組んでいる。「幼児期に育てたい10の姿」を意識し、保育内容などに反映するよう、援助の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今年度は、継続性のある保育やあそびの展開が各クラスで繰り広げられ、子どもの成長が顕著に表れて、保育者自身が体感できていた。	毎月の生活カレンダーなどで、毎日何をするのか、また、クラスの様子など知らせてくれているので、各クラスのカラーもよくわかって良い。コロナ禍で中止になったイベントを、少しずつ復活していくことも、話し合っしてほしい。こども園や保育園ではなく、幼稚園という強みを活かせるイベントや行事を増やして欲しい。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	学年間を中心とした話し合いの中で、内容や流れ、援助の仕方などを共通理解できるようにし、活動後には振り返りをする事で、次の活動につなげている。また特別な支援が必要な児児に対し、キンダーカウンセラーも交え、日々検討している。次年度は、職員全員での話し合いの場を増やしていきたい。ヒヤリハットの検討を通して、ケガ発生に対し、傾向と対策をしっかり考えていくようにした	学年で活動やあそびをする時に、その学年の先生達がみんなて、子ども達を見てくれているのが良いと思う。また、園全体を通して、同じように先生たちがみんなで見守っていることに、安心感を得ている。前年度の担任の先生が、成長を見守ってくれたり伝えてくれたり、喜んでくれたりするの、たくさんの先生に見守られながら園生活を過ごすことが出来る。定期的な研修があり、それらに参加することで保育の向上に繋がっていきそうである。勉強会や意見交換会を継続して行うことで、自分のクラスや園だけでなく、他園や他クラスの情報も得ることができ、先生の資質向上に繋がっている。	A
③ 教師として資質、能力、適正等	教務専任の先生を交え、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換会を継続して行っている。今後も、子どもたちに必要な力を育てるための、保育のあり方について、研究していきたい。	定期的な研修があり、それらに参加することで保育の向上に繋がっていきそうである。勉強会や意見交換会を継続して行うことで、自分のクラスや園だけでなく、他園や他クラスの情報も得ることができ、先生の資質向上に繋がっている。	A
④ 保護者への対応	保護者への対応は、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に、子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いたりしている。ケガ等があった場合、即、連絡を入れることにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ学園で話し合いながら取り組んでいる。今後も状況に応じた適切な対応を考えていきたい。	家庭、保護者の事情などもあると思うが、連絡の取り方などに偏りを感じる。自由参観という形で、子どもの発表の場をもっと設けることで、保護者と先生が話す機会や、子どもの様子が目に見えてわかると思う。ホームページの更新頻度を上げて欲しい。情報発信の活性化に期待したい。	B
⑤ 地域の自然や地域との関わり	今年度も、アソカ学園での野菜の収穫や、園庭でのあそびの中で、自然に触れる機会が多かった。また、父母の会企画のもと、園庭ボランティアを募り、子どもたちのあそびの援助を通して、交流を行っている。今後、近隣の施設や公園などの利用も考えたり、小中学校との関わりなど、遠足やあそびに活かしていきたい。	園庭ボランティアは、今年たくさんできて良かったので、継続して欲しい。幼稚園側が出向くような気配が増えたらいい。例えば、老人ホームとか諸学校、中学校などとの交流を、もっと増やせるのではないかと。また、地域との関わりに対し、もう少し力を入れてもいいのではと思う。	B

⑥ 研修と研究	浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、動画配信ではあるが、個別参加をして自らの視野をひろげようと努めた。昨年度の反省を活かし、終礼の時間を利用して、研修内容の報告会や、他学年の枠を超えての意見交換などを行ってきた。今年度は、学年会も回数が増えたが、園内研修への参加などがあった。アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。夏の職員研修では、演劇の実技を通して学ぶべきことが多くあり、職員間の絆を深めることもできた。	B	定期的な研修をしているようで良い。アソカ学園の先生方で研修会を行なっていることが、「アソカの園」により、保護者が知ることが出来るのがとても良い。	A
⑦ 外部アンケート	回答率は60.3%。前年度と比較し、回答率が下がった為、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけられることができるため、今後の保育について、回答結果を元に職員全員で考えていきたい。	C	保護者がどのような対応を求めているのか把握しなければ、改善が難しいと思う。	C

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

集団での日々の教育の中において、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの達成感や充実感を持つような保育やあそびを計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。保護者からの支援・協力により、行事や日々の活動も行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	体を動かす活動を中心に、外で元気にあそぶ時間を多く設けるようにする。ボールあそびや、なわとび、リレーごっこ以外にも、様々なルールの鬼ごっこなど、どの学年も、子どもたちが自発的に体を動かして楽しむように引き続き取り組んでいけるようにする。また、転ばないように、ぶつからないようにするには？ということ子どもと一緒に考えていく中で、ケガの減少につなげていきたい。
社会・地域とのかかわり	今年度も小学校や中学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験は受け入れることができたので、次年度も続けていきたい。アソカ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに様々な人との触れ合いは継続している。地域との関わり、繋がりを少しずつ出来たらいい。そのための打診を進めていければと考えている。
安全管理	幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるようにする。ヒヤリハット報告書を用いて、対策を考えていけるようにする。園バスのドライブレコーダーや、安全装置も有効に使いながら、職員間での安全認識会議を年度初めに強化していくようにしている。また、毎日、乗務員のアルコールチェックも行っている。毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防器による園舎点検などを行っていく。

令和7年度 自己評価書

令和7年12月16日
アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、『賢く・優しく・遅しく・朗らかに』に育つよう導く。その為に、教師は見通しを持った日常保育の環境構成や子どもへの関わりを実践する。また、常に教師自身の保育力と人間力アップに努めながら、園務に従事する。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	日常保育や教育行事で育てたい事柄に向け、見通しを持って多面的な保育実践を心がけた。	A
② 保育のあり方 ・ 幼児への対応	健康視診や成長度合いを熟慮する為に、教職員間の情報共有に時間を十分取り、保育に努めた。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力（人間性と社会性）アップを心掛け、実践と検証を怠らなかった。	A
④ 保護者への対応	日常生活の情報配信が滞り、保護者ニーズに応えられていない現状である。	C
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	同学園内同士、相互に園を訪問し園児との交流を持っている。教員も他園の様子に触れ研修の一助となっている。	B
⑥ 研修と研究	アソカ他園と交流する中で、互いに教員の立ち居振る舞い等を目にすることで、座学（オンライン含め）研修では得られない、実践的な学びとして効果を得ている。	A
⑦ 外部アンケート	全項目で概ね良好との評価だった。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない
B 達成されている D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多様な植物や昆虫等に触れる機会が多く、興味関心を高めている。

『美波らしい保育』の実践を教職員の心柱とし充実を図っている。園児の心と体と脳が揺らぎ、エモーショナルな時空間になるよう教師が関り保育展開している。“知育・徳育・体育”に特化した保育実践ではなく、日々の遊び（生活）の中で、自らが体感し『賢く・優しく・遅しく』そして『朗らかに』子どもたちが育ち合えるように、教職員は努めた。

発達支援が必要な園児に加え、通常よりも手厚い支援（寄り添い）の必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践を進めた。

園児個々の成長値を考慮した保育、多岐にわたる保護者対応に適切に対応できる教員の『現場保育力と人間力』向上に繋がる教員間のコミュニケーションも重視した。保育業務全般において、【可視化できない部分にこそ大切な事が多く】あり、見落とさない・見過ごさないよう努めた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
働き方改革に伴う、保育と業務の質低下防止	勤務時間明細化の中でも、教職員間の連携やスキルアップを重視し、今後も、効率優先だけに捕らわれず、教職員が同じ絵面を共有しながら良質な保育実践に努める。
発達支援が必要な園児、それに順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談機会を増やす等）を得ながら、当該児が良好な園生活を送れるよう取り組む。
保護者・子育て世代への幼児教育理解の促進	親世代の思考も多様で多岐にわたる現代。政府主導の「保育サービス」優先の風潮。子どもたちが将来に渡り、幸せな社会生活を送れる為の“幼児教育・学校教育”を理解してもらえるよう、在園生活の中で気づいてもらえるよう啓発する。

令和7年度 学校関係者評価書

(学)アソカ学園 美波幼稚園長 橋本憲幸
美波幼稚園 学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、『賢く・優しく・遅しく・朗らかに』育つように導く。その為に、教師は見通しを持った日常保育の環境構成や子どもへの関わりを実践する。また、常に教師自身の保育力と人間力アップに努めながら園務に従事する。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	日常保育や教育行事で育てたい事柄に向け、見通しを持って多面的な保育実践を心がけた。	A	年齢相応の健全な成長へ導く先生方の寄り添いに感謝します。 A
② 保育のあり方 幼児への対応	健康視診や成長度合いを熟慮する為に、教職員間の情報共有に時間を十分とり、保育に努めた。	A	恵まれた園環境を存分に生かしながらの「美波らしい保育」を継続して欲しい。 A
③ 教師として資質 能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力(人間性と社会性)アップを心掛け、実践と検証を怠らなかつた。	A	先生方がいつも明るく元気に子どもたちと関わってくれているのが良く解ります。 A
④ 保護者への対応	日常生活の情報配信が滞り、保護者ニーズに応えられていない現状である。	C	情報配信等、保護者ニーズは様々ですが、まずは目の前の園児・保育の最優先を継続して下さい。 B
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	同学園内同士、相互に園を訪問し園児との交流を持っている。教員も他園の様子に触れ研修の一助となっている。	B	他幼児教育機関では出来ない、アソカ6園のスケールメリットが発揮されています。 B
⑥ 研修と研究	アソカ他園と交流する中で、互いに教員の立ち居振る舞い等を目にする事で、座学(オンライン含め)研修では得られない、実践的な学びとして効果を得ている。	A	園児の交流だけではなく、教師同士が相互に関わることで自身の刺激となりスキルアップと教育効果に繋がっていると感じます。 A
⑦ 外部アンケート	全項目で概ね良好との評価を得た。	A	極少数の否定的意見については、内容等再検証は必要ですが、過敏にならずに園の本分を進めて下さい。 A

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多様な植物や昆虫等に触れる機会が多く、興味関心を高めている。
- ・『美波らしい保育』の実践を教職員の心柱とし充実を図っている。園児の心と体と脳が揺らぎ、エモーショナルな時空間になるよう教師が関り保育展開している。“知育・徳育・体育”に特化した保育実践ではなく、日々の遊び(生活)の中で、自らが体感し『賢く・優しく・遅しく』そして【朗らかに】子どもたちが育ち合えるように、教職員は努めた。
- ・発達支援が必要な園児に加え、通常よりも手厚い支援(寄り添い)に必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践を進めた。
- ・園児個々の成長値を考慮した保育、多岐にわたる保護者対応に適切に対応できる教員の『現場保育力と人間力』向上に繋がる職員間のコミュニケーションも重視した。保育業務全般において【可視化できない部分にこそ大事な事が多く】あり、見落とさない・見過ごさないよう努めた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
働き方改革に伴う保育と業務の質低下防止	勤務時間明細化の中でも、教職員間の連携やスキルアップを重視し、今後も、効率優先だけに捕らわれず、教職員が同じ絵面を共有しながら良質な保育実践に努める。
発達支援が必要な園児、順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解(面談機会を増やす等)を得ながら、当該児が良好な園生活を送れるよう取り組む。
保護者・子育て世代への幼児教育理解の促進	親世代の思考も多様で多岐に渡る現代。政府主導の「保育サービス」優先の風潮。子供たちが将来に渡り、幸せな社会生活を送れる為の“幼児教育・学校教育”を理解してもらえるよう、在園生活の中で気づいてもらえるよう啓発する。

令和7年度 自己評価書

令和7年12月10日

アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。
 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』
 ○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携
 ○ 期待や意欲を持つ

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	子どもの姿や意思を探り、意見を取り入れながら興味に沿った保育を進められた。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	積極的に改善点を見つけ、報告し合っている。ヒヤリハット報告数が減っている。	B
③ 教師として資質 能力、適正等	チームとして全体の協力体制が出来ている。仕事の効率化も全体で考えている。	A
④ 保護者への対応	アプリの配信やPMT活動の内容を検討し、積極的につながりを深めている。	B
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	猛暑が長かったが、四季を通して地域や自然に触れる機会を多く持つことが出来た。	A
⑥ 研修と研究	学園内の研修に積極的に参加した。研修報告をし合う中で、理解が深まっていった。	B
⑦ 外部アンケート	各項目「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」の平均が99%以上と良好であった。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている
 B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が充分でない
 D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～子どもも大人もワクワク！～

- 意欲がつながる
職員全体で子どもの声や姿を活かした保育を考えているので、「やりたい」という気持ちを持って表現してくれる子が増えてきた。活動後の振り返りや帰りの会での話しの際にも、翌日の登園が楽しみになるように工夫している。
- 人とつながる
クラスの枠を超えての活動は増えているが、より多様な異年齢の活動の必要性を感じている。人との関わりをポジティブに感じているからか、幼稚園に出入りする人など、様々な人に話しかける人懐っこい子が多い。
- 保護者とつながる
アプリの配信は保護者に浸透してきているように感じているが、職員が意図する教育的な内容をより多く発信し、伝える必要がある。PMT活動参加率は、コロナ以降少しずつ増えている。より効果的かつ参加しやすいよう内容を再検討していきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園内研修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりの理解を深めていくために、職員みんなで見て感じたことを共有するエピソードトークをより活発に出来るよう工夫していきたい。 ● 普段の保育から意識を持って、園内研修が効果的に行えるようにする。
異年齢交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> ● 園庭での異年齢でのあそびの姿から、2歳児を含めた、異年齢児の交流を計画していく。

令和 7 年度 学校関係者評価書

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園学校関係者評価委員会

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園長 田村都弥

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』
○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	子どもの姿や意思を探り、意見を取り入れながら興味に沿った保育を進められた。	A	子どもの思いを大切にし、楽しみながら主体的に取り組めるよう計画している。
② 保育のあり方 幼児への対応	積極的に改善点を見つけ、報告し合っている。ヒヤリハット報告数が減っている。	B	一人ひとりを丁寧に見守り、安全と挑戦を大切に環境作りをしている。
③ 教師として資質 能力、適正等	チームとして全体の協力体制が出来ている。仕事の効率化も全体で考えている。	A	職員同士が協力し、情報共有を大切にする温かな関係が保たれている。
④ 保護者への対応	アプリの配信やPMT活動の内容を検討し、積極的につながりを深めている。	B	アプリを通じて園での様子が伝わり、子どもと一日を振り返ることが出来た。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	猛暑が長かったが、四季を通して地域や自然に触れる機会を多く持つことが出来た。	A	気候変化に対応しながら園外保育を通して自然や地域と触れ合う機会を設けている。
⑥ 研修と研究	学園内の研修に積極的に参加した。研修報告をし合う中で、理解が深まっていった。	B	研修や情報交換に積極的に取り組み、学びが日々の保育に反映されている。
⑦ 外部アンケート	各項目「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」の平均が99%以上と良好であった。	A	保護者の満足度が高く、信頼されている様子がうかがえる。

- * 結果の表示方法
- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が充分でない
 - D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～子どもも大人もワクワク！～

- 意欲がつながる
職員全体で子どもの声や姿を活かした保育を考えているので、「やりたい」という気持ちを持って表現してくれる子が増えてきた。活動後の振り返りや帰りの会での話しの際にも、翌日の登園が楽しみになるように工夫している。
- 人とつながる
クラスの枠を超えての活動は増えているが、より多様な異年齢の活動の必要性を感じている。
人との関わりをポジティブに感じているからか、幼稚園に出入りする人など、様々な人に話しかける人懐っこい子が多くいる。
- 保護者とつながる
アプリの配信は保護者に浸透してきているように感じているが、職員が意図する教育的な内容をより多く発信し、伝える必要がある。PMT活動参加率は、コロナ以降少しずつ増えている。より効果的かつ参加しやすい内容を再検討していきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園内研修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりの理解を深めていくために、職員みんなで見て感じたことを共有するエピソードトークをより活発に出来るよう工夫していきたい。 ● 普段の保育から意識を持って、園内研修が効果的に行えるようにする。
異年齢交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> ● 園庭での異年齢でのあそびの姿から、2歳児を含めた異年齢児の交流を計画していく。

令和7年度 自己評価書

令和8年1月20日
アソカ学園 百花幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開 子どもたち一人ひとりの「自分らしさの追求」
*健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を考慮しながら教育を進めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をし、活動が展開することができた。	A
②保育のあり方 ・幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A
③教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B
④保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	A
⑤地域の自然や社会 との関わり	昨年に比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等に出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかったことが残念であった。	B
⑥研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多かったが、制限のある中でも参加することができた。	A
⑦外部アンケート	回答率は93%と去年と比べてあがりました。ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※“Being myself”（なりたい自分になる）
①人生100年を生き抜く時代
②最初の教育の場所をアソカ学園 百花幼稚園
③「なりたい自分づくり」「じぶんらしさ」…こどもの個性を大事に
アソカ学園 「あそびから創造へ」
◎自主性・思考力・創造性・表現力・対話力・協調性を育む仕掛け
・こどもができたという達成感・充実感 ・たくさんの試行・失敗体験が成功を生む
・職員一同…共通理解 → 支援・保育して 最善を尽く！
・保護者と共に、こどもの成長に喜びを感じる教職員
※活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じることができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	昨年水の事故を教訓に、あらゆる場面で、更に安全管理について全職員で危機意識を十二分にもちながら楽しく遊んで子どもたちが成長できる保育を心掛けている。 行事の見直しや精選を行って、更に園児も保護者にも有意義な学園運営を構築していきたい。 行事だけでなく、日々の子供の成長をアプリやホームページにて紹介することで、運営の充実を図りたい。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。 アソカ学園の理念である「遊びから創造へ」と子どもが将来に向けて育てるべき資質や思考力・協力性をさらに高める保育の実践にあたりたい。 小学校との交流として、職員の連携と星組の小学校探検が新たに開催できたことも今後へと繋げるきっかけとできた。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開 子どもたち一人ひとりの「自分らしさの追求」
 ○健康なからだ ○おもいよりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい「10の姿」を考慮しながら教育を進めていく。

評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をして、百花幼稚園らしい活動が展開することができた。	A 園児の活動を最優先に考えながら、できる限りの企画を立てて実践できた。父母の会は、読み聞かせ・夏祭りの夜店や餅つき等で園児との交流ができた。
② 保育のあり方 幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A 園児のやりたいことや表現の自由を認めることを大切にして、任せたり、見守ったりして程良い援助を心掛けた。
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感をもって行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B 通常教育活動はもちろんのこと、様々な行事にも園児の活動をイメージして、細心の注意を払って活動を実践できた。 また、学年団の計画、相談を重視して取り組むと共に、職員全体での活動も共同・協力的に実践できた。
④ 保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B 「れんらくアプリ」は、ほぼ毎日、園児の成長や特徴的な活動の様子を詳細に伝達できた。また、気になる園児の様子は、的確に電話連絡できた。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	昨年比べてコロナ感染の影響が少なくなり遠足等で出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかったことが残念であった。	B 遠足を毎学期実施することができた。 中学生の総合学習や家庭科の保育実習を受け入れたり、大根掘りを保護者と協力して百花農園で行ったりして円滑な実践ができた。
⑥ 研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多くなったが、制限のある中でも参加することができた。	A アソカ学園での研修が、昨年より学年会と題して、通常保育・行事に向けての課題や実践後の反省会を今後に生かせる話し合いが活発になった。
⑦ 外部アンケート	回答率は92%と去年と比べて変化はなく、ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A 肯定的な回答が多いため、否定的な意見にも目を向けて、今後の実践に生かすよう考慮した。

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※“Being myself”（なりたい自分になる） ①人生100年を生き抜く時代 ②最初の教育現場がアソカ学園 百花幼稚園
 ③「なりたい自分づくり」「じぶんらしさ」の尊重…こどもの個性を大事に アソカ学園「あそびから創造へ」
 ◎自主性・思考力・創造性・表現力・対話力・協調性を育む仕掛け
 ・こどもができたという達成感・充実感 ・たくさんの試行・失敗体験が成功を生む
 ・職員一同…共通理解 → 支援・保育して 最善を尽く！ ・保護者と共に、こどもの成長に喜びを感じる教職員
 ※活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じる事ができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	安全管理について全職員で危機意識を十二分にもちながら楽しく遊んで子どもたちが成長できる保育を心掛けたい。 行事の見直しや精選を行って、更に園児も保護者にも有意義な学園運営を構築していきたい。 行事だけでなく、日々の子供の成長をアプリやホームページにて紹介することで、運営の充実を図りたい。 豊岡小2年生の地域探検の受け入れ・初の小学校探検・3年連続初任者研修で小学校見学等の交流授業が充実できた。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。 アソカ学園の理念である「あそびから創造へ」と子どもが将来に向けて育てるべき資質や思考力・協力を更に高める保育の実践にあたりたい。